

午後試験

問 1

問 1 では、ソフトウェアの受託開発会社を例に、工事進行基準適用時の会計処理について出題した。全体として、正答率は低かった。
設問 1(2)の計算問題は、b を正しく解答しているのに、c と d の解答が逆になっているものが見受けられた。落ち着いて解答してもらいたい。
設問 3(1)は、会計処理において留意すべき事項について、作業実績時間などの項目名だけでなく、その正確性にまで言及してほしい。
設問 4 は、正答率が低かった。工事進行基準を適用開始した初年度だけに起こり得る状況について考えれば、正答を導けるはずである。

問 2

問 2 では、文字列照合処理のアルゴリズムについて出題した。全体として、正答率は高かった。
設問 1 のうは、正答率が低かった。パターンに対するスキップ数の表をどのようなアルゴリズムで作成するのか、よく考えて正答を導いてもらいたい。
設問 2 は、正答率が高かった。スキップ数を求める考え方は、おおむね理解されているようであった。
設問 3 は、for ループの範囲や終了条件に注意してアルゴリズムを読んでいけば、正答を導けるはずである。

問 3

問 3 では、工場の原価計算システムの再構築を題材に、原価計算の概念と間接費の割当てについて出題した。全体として、正答率は低かった。
設問 1 と設問 2(1)は、正答率が低かった。販売費、一般管理費、製造原価などの費用、製造原価の分類、及び利益の種類について、整理して是非理解しておいてもらいたい。
設問 2(2)は、正答率が低かった。設問に、“原価計算上の観点から”とあるので、問題文中から、“直接作業時間を基に間接費を配賦していること”と“直接作業時間は製品 A、B と同じであること”を読み取れば正答が導けるはずである。

問 4

問 4 では、Web システムを例に、非機能要件を満たすためのシステム構成について出題した。
設問 1 は、a の正答率は高かったが、b の正答率は低かった。Web システムを構成する機器についてよく理解しておいてもらいたい。
設問 3(1)は、正答率が低かった。“小数第 1 位以下を切り捨てて、整数で求めよ”と指定してあるにもかかわらず、小数点付きの解答や、四捨五入している解答が目立った。設問の指示をよく読んで、解答してもらいたい。

問 5

問 5 では、社内ネットワークへのリモートアクセスを題材にして、RAS、SSL-VPN、IPsec の特徴と使用方法について出題した。
設問 1 の d は、正答率が低かった。誤ってア(AH)と解答する受験者が多かったが、AH には暗号化機能がない。暗号化機能は、リモートアクセスに関する基本的な知識なので、十分に理解してほしい。
設問 3 は、正答率が高かった。IPsec に関する IP アドレスの重複について、原因と対策はおおむね理解されているようであった。

問 6

問 6 では、データベースシステムの設計における正規化の考え方について出題した。全体として、正答率は低かった。

設問 2(1)では、第二正規形でなくても問題は発生しない理由を問うたが、正答率が低かった。データベースの用途と正規化の必要性との関係を理解してほしい。

設問 3 は、エンティティ間の関係を誤解していると思われる解答が目立った。E-R 図の作成は、データベース設計の基本なので、状況を正しく理解して E-R 図を作成する能力を十分身に付けてほしい。

問 7

問 7 では、デジタルフォトフレームについて出題した。全体として、正答率は高かった。

設問 1 の a は、正答率が低かった。与えられた仕様を理解して、解答してほしい。

設問 2 は、正答率が低かった。タスクの特性を考慮していない解答が多かった。タスクの優先度とタスクの状態については、十分に理解してほしい。

設問 3 は、全体として正答率が高かったが、g の計算間違いが散見された。落ち着いて計算してほしい。

問 8

問 8 では、ソフトウェア開発におけるテスト計画について出題した。全体として、正答率は高かった。

設問 1 は、正答率が高かった。要件定義や設計の工程において、どのようなテスト要求事項の定義をするべきかについて、おおむね理解されているようであった。

設問 2 は、正答率が低かった。“測定データ収集”という解答が散見されたが、これは A 社の開発範囲内である。複数の開発会社が参加するソフトウェア開発プロジェクトを効率よく推進する上で有効なスタブなどのツールについて、利用目的と使用法をよく理解しておいてもらいたい。

問 9

問 9 では、企業内システムで用いられる公開鍵基盤について出題した。全体として、正答率は高かった。

設問 1, 2 は、正答率が高かった。公開鍵基盤の基本機能や仕組みについては、おおむね理解されているようであった。

設問 3 では、システムの機能では防止できないことがあり、それは何かを理解しておくことが重要になる。しっかり意識してもらいたい。

問 10

問 10 では、プロジェクトのリスクマネジメントについて出題した。

設問 1 は、リスクと問題点(課題)の違いが判別できることを問うものであり、おおむね理解されているようであった。

設問 3 は、一般的な観点又は推測を交えて解答するのではなく、問題文を良く読み、状況を踏まえて具体的に解答するようにしてほしい。

設問 4 は、解答欄が空欄のものが散見された。問題文の記述から損益の構造が理解でき、丁寧に計算すれば正しく解答できる問題である。設問 2 より計算量が多いが、複雑な計算ではないので、あきらめずに解答してほしい。

問 11

問 11 では、サーバに発生したインシデントを題材に、サービスサポートの各機能及びプロセスについて出題した。

設問 1 は、正答率が低かった。IT サービスマネジメントのベストプラクティスである ITIL の基本的な用語は、よく学習してもらいたい。

設問 3 は、b の正答率が低かった。各プロセスの目的をよく理解してもらいたい。

問 12

問 12 では、内部統制の整備状況の評価を題材に、内部統制とシステム監査について出題した。全体として正答率は低かったが、設問によってばらつきが見られた。

設問 1, 2 は、正答率が低かった。内部統制や監査において頻出する事項なので、是非理解しておいてもらいたい。

設問 3 は、正答率が高かった。ユーザ ID 管理に関する内部統制については、おおむね理解されているようであった。

設問 4 は、リスクコントロールマトリックスとヒアリングの内容を注意深く読み比べれば、正答を導けるはずである。